

「宮崎市歴史資料館3館マスコットキャラクタースタンプラリー」の 実施について

宮崎市生目の杜遊古館
学芸係長 福嶋 一恵

宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館
学芸員 松下 朋生

宮崎市生目の杜遊古館
学芸員 菅野 真由

宮崎市佐土原歴史資料館
学芸員 花田 想乃香

【要 約】

令和2年度から新たな枠組みで運営を開始した宮崎市歴史資料館3館の周知と相互利用促進を目的として、子どもが楽しみながら学ぶことのできる「宮崎市歴史資料館3館マスコットキャラクタースタンプラリー」（以下、「歴史3館スタンプラリー」とする。）を実施した。本研究では、事業計画・製作・実施を経て、利用状況やアンケートによる改善点等について分析し、その成果と課題を踏まえ、今後も歴史3館の周知を担う事業として充実と発展を目指す。

はじめに

平成21年度より、みやざき歴史文化館・宮崎市佐土原歴史資料館・宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館を「宮崎市歴史資料館3館」（以下、「歴史3館」とする。）として宮崎文化振興協会（以下、当協会とする。）が指定管理者として運営を行ってきたが、その中核を担っていたみやざき歴史文化館は令和2年3月31日に閉館となった。同館の歴史資料館としての機能や役割は、宿泊機能を停止し、展示機能をリニューアルした宮崎市生目の杜遊古館（以下、「遊古館」とする。）に引き継がれ、同年4月より新たな歴史3館として運営を開始した。

しかし、遊古館が宮崎市直営から指定管理者に交代した初年度ということに加え、新型コロナウイルス感染症に関連した長期の臨時休館が数度にわたって続く厳しい状況もあり、当協会による同館運営の開始や同年9月の新展示室のオープンについて周知できなかった。また、年度当初、来館者の中には宮崎市埋蔵文化財センターを内包していることもあってか平日のみの開館と誤解される方や、館名や福祉避難所に指定されているためか、高齢者福祉施設と認識されていた方もおり、遊古館が「歴史資料館の機能を持つ施設である」ということを周知する必要があると感じた。他2館についても、平成29年度より土・日曜と祝日のみの開館になったという基本情報をはじめとして、体験学習やイベントなどでは歴史好きな大人の方だけでなく小さな子どものいる家庭でも楽しく利用できる側面については、周知が足りていないのが実情である。

そこで、令和3年度事業として歴史3館の周知と相互利用促進を目的とした事業を学芸係で立ち上

げ、今後も運営に資する事業として発展させていくことを想定し、その計画から実施・利用状況等についての分析までの過程・内容・改善点等について研究を行うことにした。

第1章 スタンプラリーの計画・準備

第1節 事業のコンセプトとねらい

事業を立ち上げるにあたり、①新規来館者・リピーターの獲得（周知の成果）、②回遊性（巡回することで相互利用を促進）、③事業内容に対する満足度、④人的配置（職員数の少ない遊古館以外の2館の負担軽減）、⑤新型コロナウイルス感染症感染防止といった点を念頭に検討した結果、3密になりにくく、また参加者を募りやすい子どもを対象とした「歴史3館スタンプラリー」を実施することにした。

スタンプラリーを行うにあたり参考にしたのが、キャラクターのスタンプを集めながら妖怪の由来を知ることができるスタンプラリー台帳「妖怪ガイドブック19版」（境港観光協会発行）である。歴史3館の「マスコットキャラクター」（図1）も、各館が立地する地域の歴史にまつわる出自を持つため、マスコットキャラクターを知るだけでも歴史への関心が惹起される好材料であり、ただ各館を巡回し参加賞を獲得して終わるだけではなく、「歴史資料館に来て学んだ証」として活用したいと考えた。ただ、マスコットキャラクターの数が少ないこともあり、コレクションしていくのではなく、マスコットキャラクターたちと地域の歴史を学ぶ「絵本調のスタンプラリー台紙」（参加賞と引き換えではなく、絵本として贈呈）を製作することにした。



図1

歴史3館及び旧みやざき歴史文化館マスコットキャラクター

第2節 スタンプラリー台紙（絵本）内容の検討

台紙（絵本）の内容を検討するにあたり念頭にあったのが、旧みやざき歴史文化館のマスコットキャラクターであった「バンくん」の閉館記念グッズである。当初、同館の閉館イベントで配布する予定であったものの、新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休館中に閉館を迎えたことから手つかずとなっていた。そこで、「バンくん」を絵本の主役とすることで、同館の閉館周知（遊古館へ機能と役割のバトンタッチ）を兼ねて参加賞として配布することにした。

これを受け、絵本の内容は「バンくん」が主人「覚兼くん」の居城である宮崎城を出発後、①「バンくん」と「覚兼くん」にまつわる展示のある遊古館に向かい、同館東隣の生目古墳群で「ハニィ」から古墳について教わり、②宮崎市佐土原歴史資料館【鶴松館】（以下、「鶴松館」とする。）では「タンゴ」と郷土菓子「鯨ようかん」を共に食べ、③宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館（以下、「天ヶ



図2 台紙（絵本）の内容

城」とする。)の「外記どん」から天ヶ城公園が誇る千本桜の案内を受けるという構成とした。漢字にはルビを振り、歴史的な事象等には平易な解説をつけ、各館のページに自館のマスコットキャラクターのスタンプを押印する枠を設けている(前頁図2)。製本サイズは開きやすさや読みやすさ、持ち運びのしやすさを考え、横型左開きのA5判とした。

第2章 「歴史3館スタンプラリー」の実施とアンケート調査の結果

第1節 実施状況

懸念事項として、各館の距離の遠さがゴール未達成の大きな理由になると想定された。そこで、新型コロナウイルス感染症の沈静化が見込まれ、且つ行楽シーズンとなる令和3年11月2日～12月28日(遊古館以外の2館は26日まで)の2か月弱を各館での台紙の配付と押印、参加賞引き換えの期間とし、台紙と参加賞の数を同一にして焦らずゆっくり参加できるようにした。定員は台紙枚数として200名(部)に設定し、遊古館100部・他2館各50部を割り当て、台紙に通し番号を振ってゴール達成率を調査した。参加対象者は絵本の内容を理解することができる5歳以上～小学生とし、宮崎市広域圏内の小学校へチラシ配布を行い、歴史3館ホームページとSNS、協会機関誌「まなぶんか」で広報を行った。

なお、前述のとおり、台紙は学習のための絵本として贈呈するため、参加賞との引き換えとして保護者へのアンケートを実施し、評価や来館頻度、意見などを調査することにした。

期間中、新聞や雑誌、宮崎市役所のSNSにて紹介があったこともあり、配付定員を超えた遊古館のみ追加の台紙配付を行った。その結果、3館合計で304部(内訳:遊古館205部・鶴松館49部・天ヶ城50部)の台紙配付を行い、その内97名がゴール(参加賞を引き換えた館の内訳:遊古館19名・鶴松館53名・天ヶ城25名)している。



図3 押印の様子(遊古館)



図4 参加賞獲得の様子(天ヶ城)

第2節 アンケート調査について

アンケートは保護者を対象として(参加者が複数名であっても)1家族1枚で参加賞複数名分と引き換えとし、歴史3館の合計58件の回答を得た。主な集計結果は図5～7に示し、その内容についてはゴール達成率や台紙の集計とともに述べてゆく。

・ゴール達成者の年齢区分

ゴール達成者のうち、未就学児が27.8%と最も多く、次いで小学1年生が17.5%、小学

3年生が16.5%と続く。未就学児～小学3年生で全体の7割を占めており、絵本の内容が平易であったことや兄弟姉妹での参加が多かったことから低年齢・低学年の子どもとその保護者が参加意欲を持ちやすかったことが考えられる。

・歴史3館に来館したことがあるか

遊古館と天ヶ城は今回が初めての来館よりも2回目以上の来館が僅差で上回ったが、鶴松館は今回が初めての来館が80.7%を占めている。それを裏付けるように、スタンプラリーが（各館）来館の契機づけになったという自由意見が複数見られた。特に鶴松館は「行ったことがない」、「鶴松館までは距離が遠いイメージ」という参加者も見受けられ、後回しになったためかゴール数が突出している。

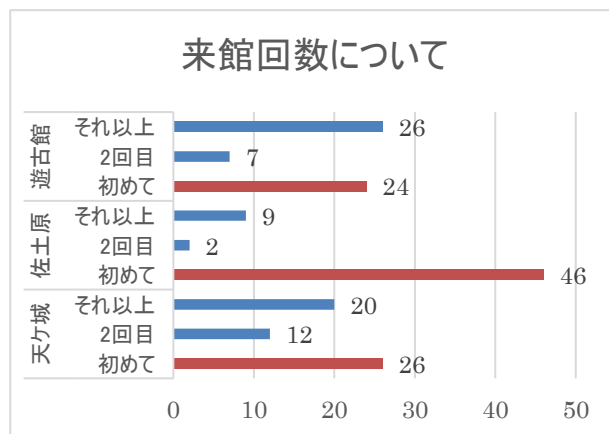


図5 来館回数について

・イベントについてどこで知ったか

宮崎市広域圏内の小学校への配布チラシによるものが77.0%と最も多く、次いで来館時の掲示や呼びかけに応じたものが18.0%となった。新聞やSNSの効果よりも学校配布物の影響力の強さがうかがえる。

・歴史3館スタンプラリーへの評価

総合評価は満足・やや満足をあわせて94.8%となり、やや不満足1.7%内で出た意見を見ると、年齢制限によって参加者の弟妹が参加できなかったことに起因するものであった。

次に、台紙の内容については、87.9%が満足、12.1%がほぼ満足となり、「子どもが台紙の内容を読むことが自分で出来、キャラクターを覚えていた」といった、簡単なことから郷土の歴史に関心を持ってもらうという企画の目的を果たせた意見もあった。ただ、仮にゴールを達成しなくても、絵本として一定の満足度や意義を提供することを想定していたため、その分ゴールへの達成意欲が湧かなかった可能性もある。

最後に、各館の距離や期間設定といった参加難易度については、ちょうどいいが56.9%、簡単が37.9%となり、概ね妥当と評価された。一方、難しいと答えた5.2%のうち、「距離が遠い」、「車がないと来館できない」という意見があった。中には「周る場所がもう少しあると楽しい」という意見もあったが、あくまでゴールを達成できた結果の意見であろう。来館時の参加呼びかけに対し、

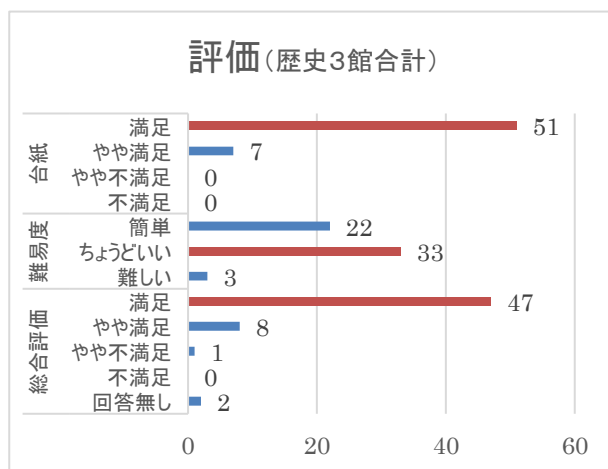


図6 評価

各館間の距離の遠さから参加を躊躇される方が一定数見受けられたことから、やはり距離がゴール未到達の一因になったと考えられる。

・自由意見

評価に対する自由意見も含めると、「初めて行ってみようと思いき行く機会になった」、「宮崎の歴史を学ぶ機会になった」、「歴史も学べ遊古館では体験もできました」といった事業のねらいを果たせた意見が見られた。

一方、体験学習に参加したことがある方の意見として、「体験学習に当選することが難しい。もっとプログラムを増やしてほしい」というものや、旧みやざき歴史文化館の大規模イベントで実施していた展示や遺跡にまつわるクイズラリー・ウォークラリーの復活希望、そして今回のようなイベントの更なる企画を期待する意見があった。このように、既に歴史3館を利用しているリピーターの声を拾うことが出来たが、歴史資料館に馴染んだ層を繋ぎとめる（満足度の維持・向上）必要性も指摘された形である。

・台紙による集計について

まず、台紙の配付時期（参加時期）の推移を歴史3館合計で見ると、最も配付数が多くなったのは、遊古館にてミニイベントを行った日を含む11月中旬～下旬で51.6%であった。ただし、図7のとおり、遊古館でのイベント開催日を除くと開催初週（11月3日～7日）の配付数が最も多くなった。

また、ゴール達成率は31.9%（通し番号を振った台紙200部に限定すると43.7%）となった。ゴールを達成した巡回ルートのうち、遊古館→天ヶ城→鶴松館が最多となったが、天ヶ城をスタートした参加者の自館台紙配付部数に対するゴール達成率が68.0%と最も高く、次いで鶴松館も53.1%と2館からスタートした参加者の半数はゴールに達成していた。一方、イベント開催日に台紙配付数を伸ばした遊古館は18.0%と振るわなかった。

また、ゴール達成にかかる期間は、当日中が41.4%と最も高く、次いで1週間以内が26.4%、2週間以上～1か月余りを合わせて32.2%となった（通し番号で追跡できた台紙の集計による）。また、全達成数の47.5%がチラシ配布の効果が最も高い開催初週に集中している。

以上から、スタンプラリーへの関心と達成意欲が高かった層は、遠い館からスタート、または初期に短期間で達成している傾向が見られる。締切に焦ることのないよう期間を長く設けた部分は、あまり効果がなかったようである。

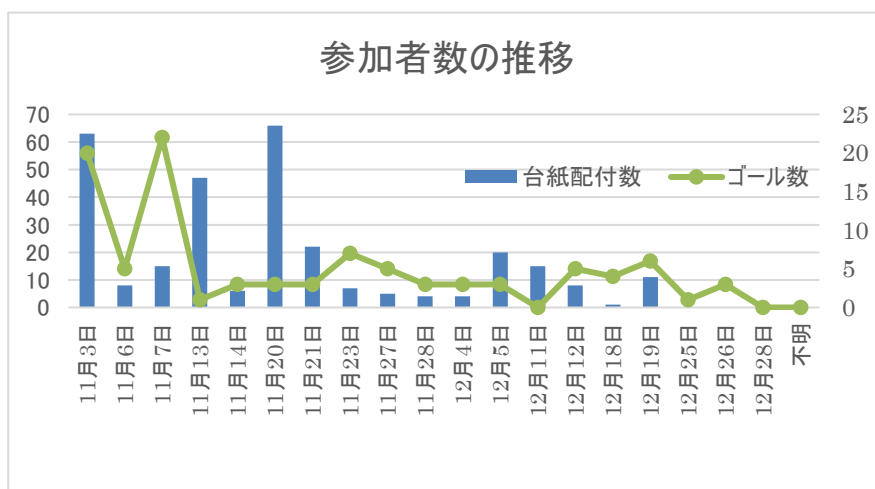


図7 参加者数の推移

第3節 課題と今後の展望

内容の反省として、まず幼児や大人でも参加してみたかったという声があり、年齢制限ではなく年齢区分で難易度を選択制にする、または謎解きやクイズラリーといった家族全員もしくは大人1名からでも参加可能な内容にするなど、幅広い年齢層の参加を考える必要がある。参加賞については概ね好評であったが、今後は物品だけではなく、参加対象によっては、モノ作りや地域めぐりといった体験券など、より各館を利用して楽しんで頂ける面にも考慮したい。

また、各館を巡回することが相互利用として望ましいが、巡回距離の問題に加え、期間が長すぎると参加・達成率ともに低くなる傾向がみられるため、例えばスケールダウンした上で月1回の開催とし、開催場所を月替わりにして参加しやすくするなどの工夫が必要となってくる。それに加え、職員が少ない遊古館以外の2館については、今回新型コロナウイルス感染症に関する受付と歴史3館スタンプラリーの受付が重なったことで想定よりも負担を強いた部分があり、人的配置と期間・回数とのバランスも考慮すべき点としてあげられる。

なお、今回参加賞やスタンプについては既存のものを流用したが、内容にこだわった台紙（絵本）については参加無料に対して印刷製本費がかかっており、参加賞の製作についても今後は製作費が必要となってくる。今回の費用対効果を計ることは現時点では難しいが、周知や相互利用促進だけではなく、来館者の評価の獲得や歴史3館の価値を高めるブランディングの機会でもあるため、今回の反省を踏まえて事業を継続し、効果的な事業であるかどうかを検証していきたい。

おわりに

旧みやざき歴史文化館では、楽しく歴史を学び、達成感を得て貰うという子ども向けのイベントを長年積み重ねてリピーターを増やしてきたが、そのリピーターがチラシを見て今回のスタンプラリーや各種体験学習にも参加しており、大事なのは意見を反映させながら柔軟に継続していくことであると感慨深いものがあった。また、こうしたイベントで周知・集客するだけではなく、同時に来館する魅力（体験・展示）の更なる充実を図っていかなければならない。そこで、次年度は子ども向けの遊古館クラブ（仮称）開設や新展示室展示解説書・オリジナルバインダーの製作、人気の高い体験学習の回数増加や歴史文化講座のテーマの更なる多様化、地域に密着した講座の開設といった既存の事業内容の深化を各館・各係で進めている。更に、体験・展示だけではなく、教育普及（授業支援・出前講座など）やレファレンス（歴史・民俗資料に関する相談など）といった歴史資料館の役割も含め、「歴史3館は市民にとってこういうことが出来る施設です」という周知も併せて行っていく必要がある。

新たな体制となった歴史3館にとって為すべきことは多いが、この事業を1つの機会として、今後も職員相互で協力しながら、よりよい館運営を形作っていきたい。

引用文献・参考文献・参考資料リスト

- 1) 境港観光協会、『妖怪ガイドブック19版』（第2刷）,2019